牛 肉 情 勢

1月16日 更新　JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容
供給	1.国産	○ 11月の成牛と畜頭数は、108.8千頭(前年比98.0%)と前年を下回った。 内訳を見ると、和牛:55.6千頭(前年比103.3%)、交雑牛:24.5千頭(同97.4%)、乳牛去勢:11.1千頭(同92.0%)となった。 ○ 12月の成牛と畜頭数は、速報値(12月31日まで集計)で96.0千頭(前年比97.3%)と前年を下回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(12月26日公表)によると、12月の出荷頭数は、乳用種で減少が見込まれるものの、和牛、交雑種では増加が見込まれることから、前年を上回ると予測し、1月は、和牛、乳用種の減少が見込まれ、交雑種で増加が見込まれものの、前年同月を下回ると予測する。 (12月 105.3千頭(前年比106.3%)、令和6年1月 83.4千頭(同98.9%))。 そのため、3か月平均(11月～1月)では、出荷頭数99.4千頭(前年比101.1%)、生産量31.8千ﾄﾝ(同101.7%)と前年を上回る予測となっている。
	2.輸入	○ 11月の輸入通関実績は、全体で33.4千ﾄﾝと前年を下回った(前年比84.7%、前月比82.9%)。 内訳ではチルド:14.5千トン(前年比82.0%、前月比86.2%)、フローズン:19.0千ﾄﾝ(前年比86.9%、前月比80.5%)となった。 輸入相手国別では、チルドは豪州が増加し、フローズンは全体的に減少した。 (参考:形態別相手国別輸入数量) チルド　:豪州6.7千ﾄﾝ(前年比111.2%)、米国6.6千ﾄﾝ(同68.4%)、ニュージーランド0.5千ﾄﾝ(同93.5%)、カナダ0.4千ﾄﾝ(同41.0%)、メキシコ0.2千ﾄﾝ(同55.6%) フローズン :豪州8.1千ﾄﾝ(前年比97.5%)、米国6.3千ﾄﾝ(同81.1%)、カナダ2.6千ﾄﾝ(同80.6%)、ニュージーランド1.4千ﾄﾝ(同98.2%)、メキシコ0.2千ﾄﾝ(同45.3%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドは、12月、1月ともに、生産量の増加から豪州産が増加するものの、現地相場の高騰もあり、米国産が減少することから前年同月を下回ると見込んでいる。 フローズンは、引き続き国内の輸入品在庫量が多く、12月は北米の現地相場の高騰により、1月は輸入先全体からの輸入量が少ないため前年同月を下回ると見込んでいる。3か月平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。 令和5年12月　合計:36.5千ﾄﾝ(前年比97.4%)、チルド:15.3千ﾄﾝ(同99.1%)、フローズン:21.2千ﾄﾝ(同96.5%) 令和6年 1月　合計:36.6千ﾄﾝ(前年比91.7%)、チルド:15.6千ﾄﾝ(同97.1%)、フローズン:21.0千ﾄﾝ(同88.2%) 直近3か月(11月～1月)平均 合計:35.4千ﾄﾝ(前年比91.0%)、チルド:15.0千ﾄﾝ(同91.4%)、フローズン:20.5千ﾄﾝ(同90.9%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 11月概況	○ 総務省発表の11月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は445g(前年比97.6%)、支出金額が1,715円(同99.1%)となり、購入量、支出金額ともに前年を下回った。(※2019年度同月比:購入量 79.3%、金額 104.0%) ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の11月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,218.9億円(前年比102.9%、既存店ベース101.7%)と前年を上回った。 精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉や鶏肉に需要がシフトする傾向が続いている。中旬からの気温低下とともに鍋関連の需要が高まったが、牛肉は和牛、国産牛に加え輸入価格も高止まりし苦戦が続く。比較的価格が安定している豚肉は、小間切れや挽肉など普段使いの商品が好調となった。鶏肉は鳥インフルエンザ発生の影響を懸念するコメントも出ている。ハム・ソーセージの加工肉は引き続き動きが鈍い。 ○ 日本チェーンストア協会が公表した11月販売概況によると、畜産品の売上は924.6億円(店舗調整後で前年比101.2%)となり、前年を上回った。 鶏肉の動きは良かったが、牛肉、豚肉の動きは鈍かった。鶏卵の動きは良かったが、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。
	3.外食 11月概況	○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査11月度結果報告によると、忘年会シーズンに向けて宴会需要が徐々に増加、加えてインバウンド需要も好調で、全体売上は前年比109.8%、2019年比では109.7%となった。特に人の集まる駅前立地など繁華街の店舗が好評だった。しかし、引き続く物価高の中、節約志向も強まっており、一部は値下げをアピールする価格施策で集客を図るところも見られた。 業態別; ①ファーストフード　前年比108.0%、2019年度比121.5%　ジャンルにより客数が前年を下回っているものの、期間限定メニューが好評と客単価の上昇で、売上は堅調 ②ファミリーレストラン　前年比112.3%、2019年度比102.1%　一部商品の値下げやインバウンド需要、少人数の会食増加により集客好評。焼肉店は都心部の店舗と食べ放題業態が好調 ③ディナーレストラン　前年比113.6%、2019年度比 95.6%　観光地や都市部のインバウンド需要が好調だが、全国的に接客の人手不足が常態化し、営業の機会損失に苦戦 ④居酒屋　前年比110.1%、2019年度比 61.9%　宴会需要が戻り始め、法人の宴会も徐々に回復。件数は増加しているものの、コロナ前の大規模宴会はまだ回復途上
	4.輸出	○ 11月の輸出実績は842.8ﾄﾝ(前年比122.6%)と前年を上回った。台湾向け(180.8ﾄﾝ、前年比139.3%)、香港向け(176.8ﾄﾝ、前年比113.5%)および米国向け(58.0ﾄﾝ、前年比107.8%)は前年を上回った。また、カンボジア向け(166.9ﾄﾝ、前年比200.3%)は前年を上回ったが、不安定な状況が続いている。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、11月末の推定期末在庫量は138.8千ﾄﾝ(前年比85.3%、前月比92.0%)と前年を下回る。 内訳は、輸入品;126.0千ﾄﾝ(前年比84.0%、前月比91.4%)、国産品;12.8千ﾄﾝ(同100.8%、同98.5%)となり、輸入品が前年実績を下回り、国産品は前年並み。 なお、今後の期末在庫の推移は、12月末;134.3千ﾄﾝ(同86.3%)、1月末;131.9千ﾄﾝ(同85.0%)と、12月、1月ともに前年を下回ると見込まれている。
枝肉相場	1.R5年12月 速報値	○ 12月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;12月31日時点)は、和牛去勢A5が2,759円(前年比102.6%)、A4が2,435円(同101.5%)、交雑去勢B3が1,655円(同104.5%)、乳牛去勢B2が806円(同78.3%)であった。 ○ 12月は、コロナ5類移行後で初の年末年始となり、人の移動が活発となる見込みから、地方への人流や節約志向への反動等から牛肉消費が増加する期待感が高まり需給が引き締まったことで、全品種で強含みに推移した。特に和牛については、今年度初めて前年同月を上回った。
	2.R6年1月 予測	○ 1月は、12月の反動から需要が減退することが見込まれるため、和牛・交雑牛ともに前月からは弱含みで推移するものと見込まれる。 一方で、乳牛去勢は徐々に需給バランスが改善しているものの、限定的であることから横ばいでの推移が見込まれる。

◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込】

	11月実績	12月速報値	1月予測	2月予測
・和牛去勢 「A-5」:	2,628円 (99.2%)	2,759円 (102.6%)	2,550円 (99.9%)	2,500円 (99.6%)
・和牛去勢 「A-4」:	2,235円 (94.0%)	2,435円 (101.5%)	2,300円 (100.4%)	2,250円 (102.7%)
・交雑去勢 「B-3」:	1,514円 (100.5%)	1,655円 (104.5%)	1,500円 (102.2%)	1,450円 (105.8%)
・乳牛去勢 「B-2」:	791円 (70.9%)	806円 (78.3%)	800円 (86.8%)	800円 (87.6%)

部分肉相場		首都圏仲間価格【税抜】	【和牛:4等級】	【ホルス:2等級】	【交雑牛:3等級】
	1.R6年1月 予測	・和牛カタセット(スネなし) :	2,950円	・ホルスカタセット(同) : 1,900円	・交雑牛カタセット(同) : 2,250円
		・和牛ロースセット(ヒレなし):	6,000円	・ホルスロースセット(同): 3,000円	・交雑牛ロースセット(同) : 4,650円
		・和牛モモセット(スネなし) :	3,650円	・ホルスモモセット(同) : 1,950円	・交雑牛モモセット(同) : 2,400円
		・和牛トモバラ :	1,800円	・ホルストモバラ : 1,000円	・交雑牛トモバラ : 1,250円

備　考

○国内生産量の推移(単位:千頭・%)

暦年	和牛計 頭数	和牛計 前年比	交雑牛計 頭数	交雑牛計 前年比	乳牛去勢計 頭数	乳牛去勢計 前年比	成牛計 頭数	成牛計 前年比
R1年	457.8	101.1	236.7	94.9	167.9	94.4	1,038.6	98.8
R2年	477.2	104.2	227.8	96.2	161.6	96.2	1,047.1	100.8
R3年	483.1	101.2	228.9	100.5	154.5	95.6	1,054.6	100.7
R4年	490.2	101.5	248.6	108.6	140.8	91.4	1,083.1	103.0
R5年　8月	37.7	103.5	20.2	103.0	11.2	93.9	85.4	100.1
R5年　9月	40.3	101.8	21.4	103.7	10.7	94.5	89.8	100.4
R5年　10月	44.4	109.8	22.4	102.6	11.1	102.9	96.0	104.7
R5年　11月	55.6	103.3	24.5	97.4	11.1	92.0	108.8	98.0

※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない

○輸入量の推移(単位:千ﾄﾝ, %)

暦年	輸入数量合計 数量	輸入数量合計 前年比	チルド数量 数量	チルド数量 前年比	フローズン数量 数量	フローズン数量 前年比
R1年	615	101.3	275	98.6	340	103.6
R2年	600	97.6	262	95.1	339	99.5
R3年	585	97.4	264	100.9	321	94.7
R4年	560	95.4	217	83.0	343	104.3
R5年　8月	45.7	85.3	17.3	88.5	28.3	83.5
R5年　9月	37.0	71.3	15.3	90.2	21.7	62.1
R5年　10月	40.3	82.9	16.8	115.3	23.5	69.1
R5年　11月	33.4	84.7	14.5	82.0	19.0	86.9

＊財務省:
通関実績

○総務省:家計消費量(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り 数量	全国1世帯当り 前年比	全国1世帯当り 金額	全国1世帯当り 前年比
R1年	6,558	97.6	21,178	96.8
R2年	7,199	109.8	23,677	111.8
R3年	6,748	93.7	23,210	98.0
R4年	6,232	92.4	22,355	96.3
R5年　8月	516	101.6	1,800	91.9
R5年　9月	465	87.4	1,536	89.2
R5年　10月	431	80.9	1,621	91.1
R5年　11月	445	97.6	1,715	99.1

○輸出量の推移(単位:ﾄﾝ、%)

暦年	チルド 数量	フローズン 数量	合計	前年比
R1年	2,066	2,274	4,339	121.9
R2年	2,341	2,503	4,845	111.6
R3年	3,490	4,388	7,879	162.6
R4年	3,737	3,717	7,454	94.6
R5年　8月	313.3	325.7	639.0	97.1
R5年　9月	390.6	411.7	802.2	114.4
R5年　10月	362.0	474.7	836.7	100.7
R5年　11月	391.3	451.6	842.8	122.6

○市況の推移: 東京市場(税込み、単位:円/kg、%)

暦年	和牛去勢A-5 価格	和牛去勢A-5 前年比	和牛去勢A-4 価格	和牛去勢A-4 前年比	交雑牛去勢B-3 価格	交雑牛去勢B-3 前年比	乳牛去勢B-2 価格	乳牛去勢B-2 前年比
R1年	2,732	97.3	2,408	97.4	1,626	106.7	1,016	97.8
R2年	2,459	90.0	2,103	87.3	1,398	85.9	924	91.0
R3年	2,702	109.9	2,427	115.4	1,554	111.1	1,004	108.6
R4年	2,607	96.8	2,348	96.9	1,523	98.1	1,042	102.4
R5年8月	2,421	98.8	2,039	93.6	1,432	95.9	773	88.3
R5年9月	2,493	97.4	2,065	90.5	1,454	97.3	746	77.5
R5年10月	2,519	95.1	2,058	87.9	1,422	93.5	828	79.5
R5年11月	2,628	99.2	2,235	94.0	1,514	100.5	791	70.9
R5年12月速報値	2,759	102.6	2,435	101.5	1,655	104.5	806	78.3

農水省食肉流通統計
(速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)